



ニュージャージー補習授業校だより

元気いっぱい 夢いっぱい

校長 天川 博

2018年11月3日

平成30年度11月号

事務所電話：201-585-0555

Eメール：njws@jwsnj.org

補習授業校に通わせるということ

補習授業校は、共同学習（教え合う、考え合うなど）による学力向上や学校生活を通しての社会性の育成を目指しているところです。また、お子様が異なった言語、生活や文化、ものの見方や考え方、行動様式等を学ぶよい機会を与えています。そして、将来のグローバルリーダーとしての人材（バイリンガル+バイカルチュラル）の育成を目指しています。

日本でも強く求められるグローバル人材とは

流暢な英語力以上に、自分とは異なった考え方や価値観の違う外国人を理解し、外国人に歩み寄り、動じることなく外国人を説得する力を持っている人のことです。こうした資質や能力をもつ人が、これからの日本には必要な人材であることを経団連会長の中西宏明氏もNHKの取材で述べられていました。

幼少期の異文化体験は、日本では身に付きにくい異文化間コミュニケーション力を育み、世界には様々な価値観をもつ人々がいることを自然に受け入れ、彼らと協働できる人間に成長する貴重なきっかけになります。また、その力は、本人を豊かにするものであると同時に、これからの日本に必要とされている能力でもあります。日本国内においては、考え方や価値観が似ている者同士のコミュニケーションが当たり前です。しかし、世界に目を転じれば、文化、習慣、宗教、収入、常識など、あらゆる観点から多種多様な人々がいて、日本とは根本的に異なる価値観をもつ社会が成長やイノベーションを牽引し、次の時代を切り開いているのが現実なのですと、9/15にご講演をいただいたTKC代表の水田早枝子氏もおっしゃっていました。

補習授業校での教室学習と家庭学習の関係（補習授業校の性格（文科省hpより））

○文部科学省の示す学習指導要領のねらいの達成を目指して教室学習の内容を精選して実施する。（例 小2国語：315時間、本校初等部2国語：120時間 **38%**）

○教室学習だけでは授業時数が少なくねらいの達成は大変難しいので、**教室学習を補うための家庭学習で学習目標が達成されるように実施する。**

- 1 補習授業校では、**教室学習と家庭学習とが五分五分の重要さをもっている。**学習の進行に係わることを理解して臨むのが補習授業校の学習集団の一員としての前提条件である。
- 2 復習の励行・家庭学習の習慣化・宿題や提出物の期限厳守は、補習授業校の一員としての務めである。
- 3 運営委員会・校長・担任は、保護者と児童生徒に対し、それぞれ担当する機会にこのことを周知する必要がある。《家庭は第二の補習校、保護者は第二の担任》

家庭学習について

【特徴】学校の勉強を補うための学習（宿題と復習）を行う。

【宿題の内容】毎日のもの：視写（ノートに書き写す）、漢字練習（読み書き）、教科書教材文の本読み 時には：教材文の暗唱等

良い学習の習慣化を「しつけ」として行いましょう。（徐々に難しくなる学習においていかなないようにする土台をつくるため、学習意欲や学習態度を身に付けるため）

家庭学習の取り組ませ方

- 相談しながら、一日一日ではなく一週間単位で計画を立てさせましょう。（ドリル〇ページまで等）※毎日必ず机やテーブルに向かう習慣が大事です。
- テレビを見ながらしないようにしましょう。
- 「ほめて、勉強させましょう」（本人の中でできたことを見つけてほめましょう）
- 学習場所は、親の目の届くところ（取組様子を見守る、変化に気づいて声かけができる）
- 学習ノートは薄くてよい。（一冊やり遂げたという達成感をもたせるため）
- 文字を丁寧に書かせる。（集中して書くことで普段からケアレスミスさせないため）

中高等部数学科授業研修



を踏んで、学習内容の理解に努めると共に「相談したり話し合ったりさせる」ことで日本語の能力も高めさせようと工夫していました。

6日に中高等部の数学科の4つのクラスでの授業研修が行われました。数学科では、基礎・基本的な内容の徹底を共通の目標とし、学年の系統性を教科部会で確認しながら授業を進めています。また、中高等部の生徒達は課外活動（スポーツや文化等）も活躍するようになるため欠席が多くなってしまいう傾向があります。生徒達がどの単元の学習が未習になっているのかを把握して、指導に当たるために評価の在り方も他教科とは行った考え方で進めております。

授業研修では、一人一人の学びを大切にするため、課題について「自分一人で考える」→「ペアまたはグループで相談する」→「全体で確かめ合う」の基本ステップ

初等部1～2年授業参観・懇談

13日に初等部1～2年の授業参観・懇談が行われ、各教室にはたくさんの保護者の皆様そして、ご家族の方も参観されている様子が見られました。

どの教室も子供たちが先生と共に一生懸命課題に取り組んでいる熱心な授業風景が見られました。中には保護者参加型の授業も見られ、先生の指示に従って学習内容の理解を助ける動作をしたり、子供たちの観察をもとにした出題に積極的に回答するなどして盛り上がっていました。

懇談会では、担任から子供たちの成長の様子や今後の予定等が伝えられた後、家庭での学習の取組の様子について話し合い、和気藹々とした中で苦勞の現状が共有されたようでした。



初等部5～6年授業参観・懇談



10月27日には初等部5～6年の授業参観と懇談会が行われました。

模型や電子教科書、プロジェクター等の視聴覚機器、実物を使った分かりやすい授業の工夫が見られました。子供たちも課題について自分なりに考え、答えを出していました。5年生の分数については現地校での学習や言い表し方の順序が異なったりしてやや混乱を招くこともありますが、子供たちは意識的に区別して学習しているようです。6年生は「速さとは？」についての学習でした。先生から「速さ」というと難しそうに感じられるけれど、今までの学習を基に進められるのです。」という説明にうなずきながら聞いていました。

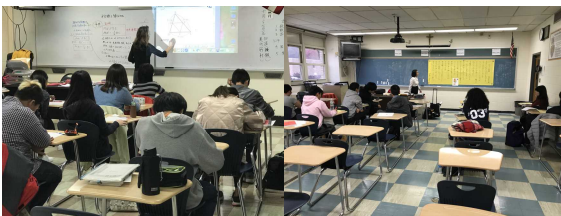
お忙しい中、たくさんの保護者の皆様に参観並びに懇談会への出席をいただき、誠にありがとうございました。

作文審査会



10月13日の放課後、校内作文コンクールの審査会が開かれ各学年1～3点の合計17の優秀賞には、1月5日の新年の集いで、全校生の前で表彰し、賞状と楯が授与されます。

中高等部授業参観・懇談



10月27日の中高等部の授業参観及び懇談会が行われました。高等部では現地校でのアクティビティーとの両立が難しい中での学習に差が生じている。しかし、高校生になるとそれなりに努力するようになる。生徒会主催行事をみんなで行うことで、お互いをよりよく知ったり協力するようになったりする。S.A.Tについても数多い問題に対応できるように指導している等の説明がありました。

入学説明会



6年生の保護者を対象とした入学説明会を27日に開催しました。会場には16名の保護者の皆様のご出席くださいました。教科担任制や定期テスト、通知表の中に「宿題」の評価がある等担当者から説明させていただきました。